

平成29年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立中津高等学校全日制

学校番号	52
------	----

I 自己評価

1 学校教育目標 学校教育方針	知・情・意の調和がとれた、人間性豊かな、たくましい生徒を育成する。 (1) 「自由と個人の尊厳」を指導の根底におき、生徒一人一人の個性を生かした自己実現の推進を図る。 (2) 「公共の精神」を醸成し、活力ある地域作りに貢献できるグローバルな視野を持った人材を育成する。 (3) 「正義を希求し、真理を愛する精神」を基に、自他を敬愛し、学問を探究する人間形成を図る。
--------------------	---

2 評価する領域・分野	◇教育課程・学習指導
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	① 本校の学習指導に対しては、生徒からの評価はほとんどの項目で大幅に評価が上がっているが、保護者からの評価は、高止まりしている。 ② 少人数指導や細かな選択授業を実施していることへの認知度は高まった。 ③ 個々の能力に応じた指導に関してやや評価が低い。(保護者)
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	① 授業の質的改善と向上に全教員で取り組むことを通して、生徒が「主体的に学習に取り組む姿勢」と「確かな学力」を育成する。 ② 単位制の特色を有効活用し、生徒の多様な進路希望を実現する。 ③ 自己肯定感の育成を基に、最後まであきらめない気持ちを育む。
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	① 学力変化や学習効果の分析を、教務部や進路指導部を中心として進め、生徒個々に効果的な学習指導について研究する。 ② 教育系学会の動向や報告を参考に新旧の授業研究を行い、各教科会で効果的な授業法を開発し評価検討する。これらの情報を教育課程や学習指導の委員会で報告・共有し研究を進める。

6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
① 生徒による授業評価、管理職や教員相互の授業参観による授業研究を基に、授業技術力向上や内容の精選等の授業改善に取り組んだ。 ② 定期試験や模擬試験の結果分析や面談、日常生活観察を通して、生徒の多面的理解を図った。	①教員が意欲的かつ継続的に授業改善に取り組み、生徒の基礎基本の確実な定着を支援できたかに重点をおいて、管理職評価や教員の自己評価、及び生徒の授業満足度を基準とした。 ②進路結果分析により、生徒が進路希望を達成する科目選択が図れ、進路実現ができたか。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
① 全教員が、生徒による授業評価を実施し、どの程度主体性をもって授業に取り組めたかを確認した。又、管理職と教員相互の授業参観により、授業課題を明確化し、課題解決のための新しい授業展開の開発や授業改善に取り組んだ。 ② 計画通り生徒の多面的理解を深めた。	① 生徒・教師の授業評価等 ② 生徒の自己評価やアンケート	A (B) C D (A) B C D (A) B C D
11 成果課	○ 多様な選択科目や習熟度別授業が実施できている。(生徒と教員による自己評価より) ○ 授業に関する工夫改善の効果を、教師間の相互交流が進んでいる。また他校への視察や研修会への積極的な参加を通して、変革期に対応した研究が進み始めた。	
	総合評価 (A) B C D (A) B C D	

題	(教科研修会、授業アンケートより) ● 新しい授業展開を試みた。しかし生徒理解をベースとした授業内容の精選と授業リソースの配分が不明確で、教育効果の向上が定着しなかった。 (生徒アンケートより)	A (B) C D
12 来年度に向けての改善方策案 ① より主体的な学習に取り組める授業形態、方法の研究・実践を深める。(岐阜県「カリキュラム開発事業」研究協力校3年目、大学入試改革初年度生入学) ② 学年会や学習指導委員会を活用して学校行事と学習活動の連携を強化する。 ③ 他教科間の授業研究と連携を強化することにより、新しい観点による授業の質的向上を図る。 ④ 生徒が納得出来る進路選択が出来るように、自己理解と自己肯定感が持てる授業、即ち考える力を育成する授業展開の徹底を図る。		

II 学校関係者評価

実施年月日：平成30年1月30日

【意見・要望・評価等】

- ・中津高校の人気は依然高い。小学校6年生でも中津高校に入学したいという発言を聞いたことがある。先生方の努力が地域にも浸透している表れだと感じる。
- ・教育改革、高大接続改革を控え、主体的に学習に向かう姿や、CCC活動をはじめとした自己有用感を高める活動、また将来を見据えた教育(キャリア教育)を積極的に取り入れ、改革に応じた手立てを講じていることがわかった。そうした中で、中間考査や期末考査、また普段のテストなどで記述式の問題を増やすなどの工夫をしてほしい。
- ・主体的な活動は、高大連携講座への取り組みをみても、多くの生徒ができているように思う。普段の授業や家庭学習の中で、生徒自身が実感しているのだろうか。現在の中津高校の方向性を保ち、より高みを目指してほしい。

平成29年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立中津高等学校全日制

学校番号

52

I 自己評価

<p>1 学校教育目標 学校教育方針</p>	<p>知・情・意の調和がとれた、人間性豊かな、たくましい生徒を育成する。</p> <p>(1)「自由と個人の尊厳」を指導の根底におき、生徒一人一人の個性を生かした自己実現の推進を図る。</p> <p>(2)「公共の精神」を醸成し、活力ある地域作りに貢献できるグローバルな視野を持った人材を育成する。</p> <p>(3)「正義を希求し、真理を愛する」精神を基に、自他を敬愛し、学問を探究する人間形成を図る。</p>
<p>2 評価する領域・分野</p>	<p>◇生徒指導</p>
<p>3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等</p>	<p>① 生徒のアンケートでは、「いじめや差別を許さず、厳しく対応している」で「A よくあてはまる」が53%から71%に上昇した。また、保護者アンケートでは、どの項目も「A よくあてはまる」「B ややあてはまる」が増加した。引き続き教職員で情報共有し、助け合いながら、生徒支援をしていきたい。ただ、「体罰の防止について」で生徒・保護者ともに1名ずつが「C あまりあてはまらない」と回答している。体罰は確認できていないが、教職員の言動についてはさらなる注意が必要である。</p> <p>② 身だしなみ指導については、1割程度の保護者からは評価されていないのが実情である。身だしなみや挨拶などの基本的な生活習慣について、生徒自らが自分自身を律する「自律」が徹底されるような支援をしていきたい。</p>
<p>4 今年度の具体的かつ明確な重点目標</p>	<p>① 学習・部活動・学校行事・その他の特別活動にしっかり参加し、優先順位を付けて行動できるようにさせる。自主・自立を促す。</p> <p>② 校内での身だしなみは落ち着いてきたので、今後もこれが継続するよう、身だしなみ指導・登校指導は継続して実施する。また、校外についても気を配るよう努める。</p> <p>③ 地域との連携・関係を昨年度以上に築き上げていく。そのためにもCCC活動の活用や地域に広がる自主的な生徒会活動・委員会活動を展開する。また、特別支援学校との交流も検討したい。</p> <p>④ 一昨年度後期生活委員会が作成した「携帯心得」を活用し、生活委員会・生徒会を中心に啓蒙活動を活発にさせたい。危険な歩きスマホを自重するように指導していきたい。</p> <p>⑤ 問題行動、いじめ、不審者等様々なトラブルに関する事象の未然防止に努める。</p> <p>⑥ 全職員が共通の課題を認識し(共通認識)、あらゆる場面で助け合いながら(協同体制)、指導・支援する。</p> <p>⑦ 問題を抱える生徒や保護者への初期対応を迅速に行う。早期の家庭訪問を躊躇しない。</p>
<p>5 重点目標を達成するための校内における組織体制</p>	<p>① 学年会や各分掌との連携の強化</p> <p>② 全職員が共通認識し、協同体制で指導・支援できる体制強化</p>

6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
① 自主性を重んじた活動や各種委員会の活性化につながる活動支援（CCC活動の推進） ② 学年と連携した身だしなみ指導 ③ 教育相談の充実	① 諸活動参加者の感想、生徒の実態を観察 ② 外部アンケートによる実態把握 ③ 迷惑調査など生徒へのアンケートによる実態把握	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
① 委員会活動の活発化及びCCC活動により地域貢献活動を含めたボランティア活動が昨年度より広がりを見せ始めた ② MSリーダーズによる啓発活動 ③ グループディスカッションを中心とした、自己啓発力・行動力を磨く「ひびきあいの日」実施 ④ SCによるカウンセリングと事後指導	① 参加状況、活動後の生徒の様子 ② 参加状況、活動後の生徒の様子 ③ アンケート結果、態度 ④ 未然防止、問題解決	A (B) C D A (B) C D A (B) C D A (B) C D
11 成果課題	○ CCC活動により、地域貢献を意識したボランティア活動に積極的に参加する生徒の裾野が少しずつ広がってきている。 ○ 生徒がより主体的に委員会活動などの特別活動に関わることができるようになりつつある。具体的には、生活委員会が授業での挨拶のさらなる向上を呼びかけたり、生徒会役員が生徒昇降口で朝の挨拶運動を自主的に実施した。 ○ 昨年に引き続き、「ひびきあいの日」に3学年を混ぜた縦割りのグループでのグループディスカッションを実施した。生徒のアンケート結果もよく、異なる学年の意見を聴いたり、先輩のすごさを感じることができ、中津高校がより良いチームとなる一つの方法であり、今年度は5月に旭陵祭に関する話し合いも全校体制で実施できた。 ● 身だしなみは落ち着いてきてはいるが、中には気になる生徒もいる。一人一人が中津高校の代表としての立ち居振る舞いがどこまでできるかが今後の大きな課題の一つである。 ● 歩きスマホについて有効な指導がなかなか見つからない。SNSを含めた携帯（スマホ）使用に関するマナーについては事あるごとに指導していきたい。 ● 勉強と部活動の両立は言うまでもないが、3年間のうちに何か一つ自分の視野を広げるために学校外の活動に参加するような意識づけをしているが、一部の生徒への広がりを感じるが全体へ浸透は感じられない。自分の可能性を広げることは将来の可能性へとつながるので、全体へ広がる方法を模索していきたい。	
12 来年度に向けての改善方策案 ① 生徒がより積極的に様々なことを企画立案できる環境を作り、リーダーの育成という観点を重点課題として委員会活動を引き続き充実させる。 ② 生徒がより積極的に様々な企画に参加し、自己有用感を味わえるような特別活動を実施することを継続する。（CCC部の活用） ③ SNS等携帯（スマホ）の有効な使用方法を生徒たちに考えさせる。 ④ 一人一人が中津高校の代表であるという自覚をもって生活させる。 ⑤ 特別支援教育と教育相談を上手に峻別し、様々な生徒に対応するための教育相談体制をより充実させるよう検討し、教員研修を実施する。		

II 学校関係者評価

実施年月日：平成30年1月30日

【意見・要望・評価等】

- ・いじめや体罰に関する調査項目で、そういうことが完全にないという数字になっていないことが気になる。「わからない」でさえゼロになるのが理想だ。
- ・アンケート結果について、生徒会の評価が良くないが？ → 毎年同じことをするわけではないので、今年度の旭陵祭での活動が他の生徒には見えづらかったかもしれない。教員サイドからの視点ではよくやってくれていたと思う。
- ・地域とつながることは良いこと。引き続き積極的にCCC活動を！

平成29年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立中津高等学校全日制

学校番号	52
------	----

I 自己評価

1 学校教育目標 学校教育方針	知・情・意の調和がとれた、人間性豊かな、たくましい生徒を育成する。 (4) 「自由と個人の尊厳」を指導の根底におき、生徒一人一人の個性を生かした自己実現の推進を図る。 (5) 「公共の精神」を醸成し、活力ある地域作りに貢献できるグローバルな視野を持った人材を育成する。 (6) 「正義を希求し、真理を愛する精神」を基に、自他を敬愛し、学問を探究する人間形成を図る。
--------------------	---

2 評価する領域・分野	◇進路指導
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	① 生徒に適した情報を示し、進路希望に合った適切な指導が行われている点で全体的に一定の評価をいただいた(94%)。よりタイムリーで内容を精選した情報提供と指導を進めていきたい。 ② 生徒一人一人に対するより具体的な指導がさらに必要とされている。 ③ 保護者が求める情報等の提供については、「保護者のための進路サポート勉強会」等の開催もあり、浸透してきている。
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	① 学校全体を見渡した進路指導体制の確立 ② キャリア教育の推進と生徒の進路実現への援助 ③ 次年度に生かされる指導
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	① 学年会、教科会、教務部との連携と進路研修会の充実 ② 進路指導部を中心とした学習効果や学力の分析 ③ 前年度3年学年会からの引き継ぎの充実と資料の活用

6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標
① 進路指導及びキャリア教育において進路指導部がイニシアティブを取り、次年度に引き継がれる体制作り ② 進路プログラムの充実 ③ 効果的な補習、模試の計画と実践、評価 ④ 進学情報の分析と提供 ⑤ 進路判定会議の充実	① 各種事業実施後のアンケート集約や反省の分析、活用方法 ② 生徒の進路結果やその満足度(含む追跡調査) ③ 教員側からみた一人一人の生徒の進路結果の分析 ④ 学年会や他の分掌からの意見 ⑤ 進路結果と判定会議の検証・分析
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点
① 1年秋季研修、土曜補習、サテライン講座、夏期集中補習、センター試験演習 ② 進路講話、オープンキャンパス参加、大学生に聴く会、1年生企業見学、出前講座 ③ 大学判定会議、就職支援、羅針盤発行、インターンシップ ④ 保護者を対象とした講演会、勉強会	① 教師・生徒の反省等 ② 模試成績の判定等 ③ 進路情報の活用等 ④ 保護者との連携
	10 評価
	① A B C D ② A B C D ③ A B C D ④ A B C D

11 成 果 課 題	<p>○前年度を基礎としてさらに充実した学校全体を見渡した進路指導のシステム作りを推進することができたが、全職員で共有できるものに発展させる必要がある。</p> <p>1・2年生の総合的な学習の時間における弁論大会に向けた取り組みを充実させた。特に2年生はゼミ方式で本年度も実施し、発表はクラスで実施した。</p> <p>△1年生の秋季研修は定着していった。今後さらに必要とされる学力三要素の育成に向けた取り組みを検討する必要性がある。</p> <p>●学年によって、入学時の学力が低下している学年がある。中学校までの学び直しを含めた指導の方法を工夫、検討したい。学年団の意見を聞き、よりよい対策を立て、それをもとに系統立った指導を構築する。</p>	総合評価 A (B) C D
12	<p>来年度に向けての改善方策案</p> <p>① より効果的な補習システムや模試の活用を研究する。</p> <p>② 全職員による情報の共有や進学支援の一層の体制作りを進める。</p> <p>③ 新テストを見据えて、各教科における授業や課題の見直し、他教科との交流、模試のやり直し指導などを通して、より生徒に力をつけさせるにはどうしたらよいか研究する。</p> <p>④ 保護者との連携を深め、よりニーズにあった取り組みを行うことで、生徒・教員・保護者が一体となった進路指導を行っていききたい。</p> <p>⑤ 総合的な学習の時間の弁論大会に向けての開始時期を考え、夏休みに活動できる時間を確保する。</p>	

II 学校関係者評価

実施年月日：平成30年1月

30日

【意見・要望・評価等】

- ・保護者のための進路サポート勉強会を8回開催し、センター試験の出願や、大学入試など生徒に示している内容を保護者に伝えていることはとても素晴らしい。
- ・1年生企業見学や秋季研修からの弁論大会への取組の流れや、2年生でのインターシップや出前講座からの弁論ゼミの取組による弁論大会発表までの流れで、生徒が体験的に感じたことを、自分で文章でまとめることが、現在の生徒の間われている主体的な取り組みになっている。
- ・推薦入試など生徒一人一人に担当教員を割り振るなど手厚く指導していることがわかる。

平成29年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立中津高等学校全日制

学校番号	52
------	----

I 自己評価

1 学校教育目標 学校教育方針	知・情・意の調和がとれた、人間性豊かな、たくましい生徒を育成する。 (7) 「自由と個人の尊厳」を指導の根底におき、生徒一人一人の個性を生かした自己実現の推進を図る。 (8) 「公共の精神」を醸成し、活力ある地域作りに貢献できるグローバルな視野を持った人材を育成する。 (9) 「正義を希求し、真理を愛する精神」を基に、自他を敬愛し、学問を探究する人間形成を図る。
--------------------	---

2 評価する領域・分野	◇保健環境
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	① 健康診断の結果を通知し、早期治療を指導している。理解してはいると思われるが、治療報告がされていない生徒には保護者への連絡をしている。 ② 生徒の美化意識が少し向上した。清掃活動の充実を図りたい。 ③ 警報時の対応を昨年度より行ってきたので、防災としての保護者への評価が少しずつ上がっている。また防災リーダーの位置づけを明確にして、生徒から呼びかける方法を行った。
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	① 自己健康管理のできる生徒の育成 ② 清掃活動をする意識の向上 ③ 防災への関心を高める
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	① 生徒の生活様式を把握し、適切な指導をする。 ② 美化委員の活動の充実 ③ 防災リーダーによる防災に関する啓発活動の充実

6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標
① 生徒への健康管理の呼びかけ・保健委員の活動 ② 清掃時間確保・校内整備・巡回確認 ③ 防災に関する情報提供をする。	① 生徒の生活習慣のチェック・健康診断の再検査を保護者へ連絡 ② 清掃活動の意識向上 ③ 防災関係の掲示物の充実

8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
① 保健委員の保健活動（加湿器の管理・清掃） ② 美化委員の清掃活動（校内美化のポスター掲示・美化委員による清掃活動） ③ 応急手当実習の実施（1学年） ④ 毎月の安全点検、清掃活動点検の実施 ⑤ 保健室利用カードにより担任、教科担任への連絡確認の徹底 ⑥ 保健安全講話（性に関する知識）	① 生徒の活動状況 ② 点検表の提出状況 ③ 治療報告書の提出状況	(A) B C D A (B) C D A (B) C D

11 成果課	●今年度も特定の生徒の保健室利用（長時間）があったが、後半は落ち着いた。今後も教育相談と連携しながら次年度の課題としたい。 ○高校生防災リーダーの取り組みもあり、生徒たちの啓発活動があらゆる場面で実施され生徒の関心もあったと思われる。しかし、防災士資格取得の研修と、部活	総合評価 A (B) C D
--------	--	-------------------

題	<p>動の試合が重なるなど、少し課題を残した。</p> <p>○防災・施設の安全管理については充実した取り組みができたと思われる。</p>	
12	<p>来年度に向けての改善方策案</p> <p>① 自己健康管理への意識の向上</p> <p>② 学校環境美化意識への向上</p> <p>③ 防災意識への向上</p>	

II 学校関係者評価

実施年月日：平成30年1月30日

【意見・要望・評価等】

- ・昔よりも、身体的な不調ではなく、精神的な面での不調を抱えている生徒が増えていると思う。難しいと思うが、上手に対応して欲しい。